

ウガンダ月報(2019年1月)

主な出来事

【内政】

- コンゴ(民)国境におけるエボラ出血熱監視対策の強化
- クテサ外相の収賄疑惑

【外政】

- ルグンダ首相とテドロスWHO事務局長の会談
- ルグンダ首相のアブダビ訪問, ムハンマド・アブダビ皇太子との会談
- ムセベニ大統領のアジスアベバ訪問
- ムセベニ大統領の第49回世界経済フォーラム出席
- 通信会社ウガンダMTN幹部の国外追放
- モザンビークにおけるウガンダ人テロリストの逮捕
- 国連エンテベ地域支援センターの移転問題

【経済】

- 太陽光発電能力の増加
- ブリオン製錬所によるコンゴ(民)からの金の密輸
- ムーディーズによるウガンダ国債の格付維持(B2)
- アフリカ開発銀行による2019年アフリカ経済見通し

【日・ウガンダ関係】

- 草の根・人間の安全保障無償資金協力に関する贈与契約の締結
- ナイル川源流橋舗装の亀裂
- ナイル川源流橋舗装の亀裂(続報)

【内政】

- ウガンダは、コンゴ(民)の大統領選挙による治安状況悪化により、コンゴ(民)難民の増加に備えて国境でのエボラ出血熱監視対策を強化した。これまでのところ、ウガンダ国内でエボラ出血熱の患者は確認されていない。(2日付ニュー・ビジョン紙)
- (クテサ外相が中国企業から50万米ドルの賄賂を受け取った疑いに関し)29日、議会外交委員会は、クテサ外相は海外旅行を禁じられているのではないかと指摘した。これに対し、クテサ外相は、「自らは自由にどこにでも旅行できる。自分はいかなる脅しも受けておらず、仕事がある所にはどこでも出かけていく。」と述べた。(30日付ニュー・ビジョン紙及びデイリー・モニター紙)

【外政】

- 2日、テドロスWHO事務局長は、ルグンダ首相らと会談し、ウガンダが国境を接するコンゴ

(民)からのエボラ出血熱の流入を適切な対策を取ることによって防いでおり、ウガンダによる強力な疫病監視システムとWHOへの支援を称えた上で、引き続きエボラ出血熱の流入リスクは高いと述べた。これに対しルグンダ首相は、WHOの支援に感謝すると共に、国境で対応に当たっているウガンダの医療関係者を称賛し、ウガンダはこの問題を克服できる自信があるが、対応を調整しなければならないと述べた。(3日付ニュー・ビジョン紙)

- 13日、ルグンダ首相は、ムセベニ大統領の名代として、第9回国際再生可能エネルギー機関(IRENA)総会出席のためアブダビを訪問し、ムハンマド・アブダビ皇太子と会談した。両者は、二国間関係、分野横断的な二国間関係発展の方策、特に貿易、投資及びエネルギー分野での方策について議論した。(15日付ニュー・ビジョン紙)
- 17日、ムセベニ大統領は、カガメAU議長が招集したハイレベル協議に出席するためアジスアベバを訪問し、2018年12月のコンゴ(民)大統領選挙の結果について、アフリカ各国首脳と議論した。18日現在、議論の詳細は分かっていない。(18日付デیلیー・モニター紙)
- 22日、ムセベニ大統領は第49回世界経済フォーラムに出席するため、スイスのダボスに赴いた。同大統領は、4日間にわたる本会合で、世界のビジネスリーダーによるウガンダ及びアフリカにおける投資機会について議論した。本会合には、安倍総理、メルケル独首相、アーダーン・ニュージーランド首相、ボルソナロ・ブラジル大統領等が出席した。23日、ムセベニ大統領はシュワブ世界経済フォーラム会長と会談し、アフリカ版世界経済フォーラムをウガンダで開催したいと述べた。(23日及び25日付ニュー・ビジョン紙及びデیلیー・モニター紙)
- 通信会社ウガンダMTNの幹部3名が、通話盗聴等の疑いでウガンダ当局に逮捕され、国外追放された。3名の国籍はルワンダ、フランス及びイタリアで、ルワンダ人は19日、フランス人は21日に追放された由。イタリア人への対応は明らかにされていない。ルワンダ政府関係者は、これは在ウガンダ・ルワンダ人への嫌がらせであり、今回追放されたルワンダ人の立場では盗聴等はできないはずだと述べた由。(23日付ニュー・ビジョン紙及び26日付イースト・アフリカン紙)
- 29日、モザンビーク当局は、25日に3名のウガンダ人を逮捕したと発表した。この3名はモザンビーク北東部の石油が多くあるカボ・デルガード州でのイスラム勢力のテロに関わった疑いをもたれている。逮捕された3名は、ウガンダのアルシャバーブに属していると白状したが、モザンビークのテロには関与していないと述べた。(30日付ニュー・ビジョン紙)
- カンパラ郊外の国連エンテベ地域センターをナイロビに移転すべきとの国連のコンサルタントによる報告書を受け、29日、議会外交委員会の場で、クテサ外相は、「ウガンダは同センターの移転に反対し、これをエンテベに残すよう働きかけている。」と述べた。(30日付ニュー・ビジョン紙)

【経済】

- ウガンダにおける太陽光発電能力は、今年中に50メガワット(MW)に達する。9日、ムセベニ大統領は、ウガンダ中部ゴンバ県の20MWのカブラソケ・パイロット太陽光発電所の開所

式の中で、「政府は、国中に電力を拡大しようと計画しており、村々へ電力を拡大する必要がある。」と述べ、より多くの地方のウガンダ国民が家庭で太陽光発電に接続出来るよう、太陽光発電に関わる企業に電気料金を引き下げるよう呼びかけた。(10日付デイリー・モニター紙)

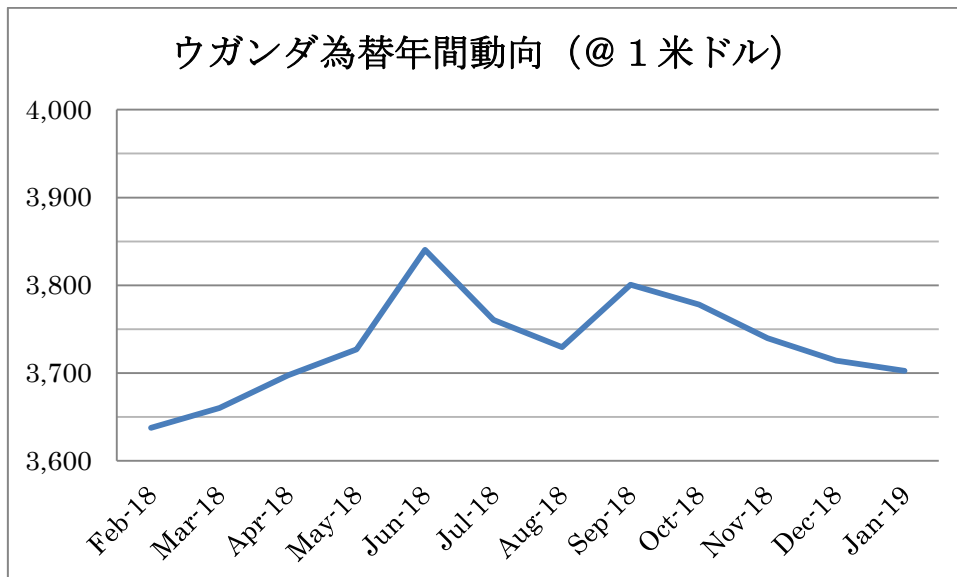
- カンパラのマドバニ工業団地にあるブリオン製錬所は、コンゴ(民)の紛争地帯からウガンダに密輸した金を取り扱って、ドバイ、米国、欧州に輸出しているとの嫌疑がかけられた。国連の専門家は、金の供給元が直接・間接的にコンゴ(民)の制裁の対象となる活動に関わっているかどうかを検証するために、ブリオン精錬所に金の供給元を明らかにするよう求めたが、ブリオン精錬所はこれに協力しなかった。(12日付サタデー・ビジョン紙)
- 米国の国際的信用格付会社のムーディーズは、ウガンダ国債の格付けを、ノンプライム債の中では最高のB2に維持した。ムーディーズの報告書は、「ウガンダ及びルワンダは、農業分野の見通しの改善に支えられて、一層の経済成長を遂げるだろう。東アフリカは全体として、2019年にも6.8%という最も力強い成長を遂げるだろう。」としている。(16日付ニュー・ビジョン紙)
- アフリカ開発銀行の2019年アフリカ経済見通しは、「2019年、東アフリカはアフリカ大陸のどの地域よりも急速に成長する。同地域は2019年には平均で5.9%、2020年には6.1%の経済成長を遂げるだろう。この成長により、東アフリカは他の地域よりも海外直接投資を引き寄せている。」としている。(21日付デイリー・モニター紙)

【日・ウガンダ関係】

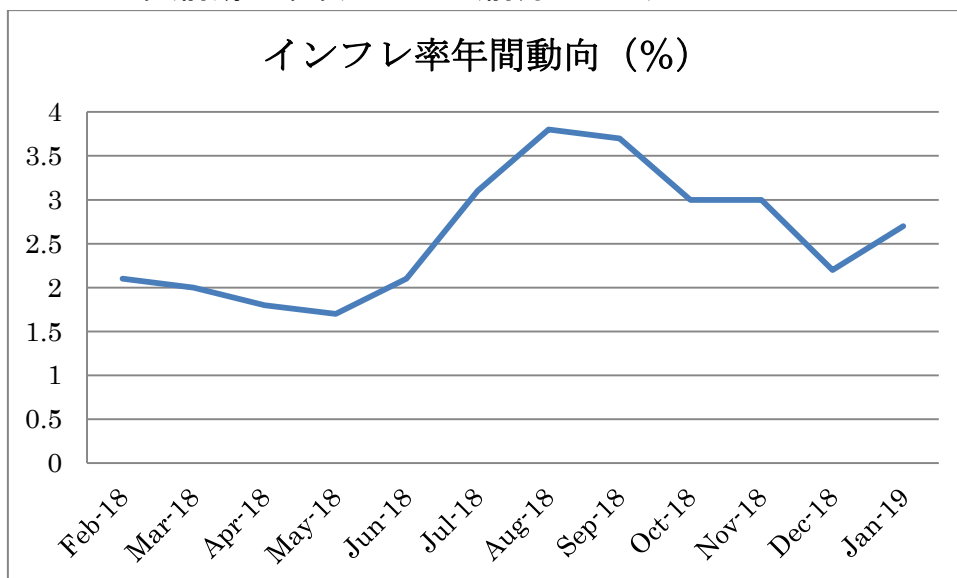
- 9日、亀田大使は、平成30年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件、「セレレ県アドウェニ小学校における教育環境改善計画」、「アルア県エワバ小学校における教室棟建設計画」、「カムリ県ナマサガリ中高等学校における女子寮建設計画」、「グル県聖メアリー・ラチョー病院における医療機器整備計画」の贈与契約を締結した。(14日付ニュー・ビジョン紙)
- 28日、ナイル川源流橋を訪問したデイリー・モニター紙は、橋面舗装の亀裂を確認した。新しい橋に亀裂が生じたことは、ソーシャル・メディア上でウガンダ国民からの様々な反応や思惑を呼んでいる。情報筋は、「ドイツで製造された防水材とウガンダで製造されたアスファルトがうまく接着しなかった。これは機能上の問題で構造上の問題ではない。」と述べた。(29日付デイリー・モニター紙)
- 31日、UNRAのカジナ総裁は、ナイル川源流橋の道路舗装の亀裂及びその対応について、プレス向け説明ツアーを実施し、「橋の構造は堅固であり、設計されたとおり120年間持続するものである。唯一の問題点は、防水層とアスファルトの各層がうまく接着しなかったことである。」と述べた。(2月2日付サタデー・ビジョン紙)

(別紙)2019年1月主要経済指標(ウガンダ中央銀行)

・ウガンダ・シリング為替相場@1米ドル:3702.4シリング(前月3,714.1シリング)



・インフレ率(前期比年率):2.7%(前月2.2%)



・政策金利: 10. 0%(前月: 10. 0%)

